

犬 大 おおくわ 議会だより

号外 平成20年5月22日発行

■ 議員と語る会意見要望



重要文化財 定勝寺庫裏



フォレスパ木曽のツツジ



阿寺溪谷の吊り橋

「村の観光資源を活かして！」

●発行：大桑村議会 ●発行責任者：貴舟 豊 ●編集：議会報編集特別委員会
〒399-5503 長野県木曾郡大桑村長野2778

第2回

議員と語る会

村の活性化へ具体的提案

議員と語る会は、四月二十二から二十四日の三日間、野尻地区館、須原地区館、中央公民館において、延べ四十九名の出席により開催されました。意見要望を要約して掲載します。

観光資源の連携

● 村にはフォレスパ木曾のツツジやシャクナゲ、のぞきど森林公園のツツジがあったり、施設では池口寺や定勝寺があったりするが、そこへバラバラに人を集めようとしている。あてら荘へ泊まって、散策コースをセットして、村全体でその地域資源を活用することを考えたかどうか。

● タルで考える必要がある。観光ニーズは変化している。これをどうとらえるか、観光行政全般に考えていくことが大事であり、観光の集中化を考へなければいけない。のぞきどのミツバツジやブルーベリーをボラソニアでフォレスパ木曾へ移植し群生させ、阿寺溪谷とワンセットにしてPRする。



中央公民館

● そうすればフォレスパ木曾にも入り込み客が増え、収支も改善するのではないか。これを早く計画し早く実行する必要がある。誰がプランニング（企画）するかが重要であるが、行政ではマンパワー（人的資源）的に無理があるので、専門委員会を編成し計画を作成することを提案したい。

● 大桑村には観光資源はあるが、それらを単発でバラバラに考えている。それでは生き延びるには無理がある。各々の場所を全部ひっくめて検討するグラウンドデザイン（全体構想）という考え方が必要だ。有名な観光地を見て回ることも観光だが、静かに自分の好きな時間を過ごすことも観光である。大桑には静かに時間を過ごせる場所があり、それらを散策コースとするような考え方や、観光地を結びつけたサービスが提供できないか。

フォレスパ木曾の誘客に力を！

● 社会的な背景を考えると、時間も金もある団塊世代の新しいニーズを調べ、どのようなサービスが提供できるかということ、村全体で考えていく方向が必要である。

● あてら荘上のツツジ、シャクナゲの規模が大きく大変綺麗である。もつとアピールし、観光客を誘客したらどうか。誘客にもつと村が力を入れるべきだ。

● フォレスパ木曾では、以前、ボラソニア募集で一人しか集まらなかったようだが再度募集したらどうか。

● 誘客に力を入れ、お客が沢山来ればボラソニアも増えるのではないかと。南木曾町はツツジ祭りや妻籠健康マラソンなど、どんなイベントがあるかわかるが、大桑は何をやっているかわからない。これではフォレスパ木曾などへの誘客にも影響が

あるのではないか。大桑でも連続したイベントをつなげていく必要がある。どの施設を見ても中途半端で目玉商品がない。観光行政全体という観点から良い方策ができないか。

フォレスパ木曾への提言

● 観光立村ではないといつて放っておいた行政と、各地区でフォレスパ木曾が問題だと言っている住民とに意識の乖離がある。このことが一番の問題ではないか。

● 温泉館は赤字で改善の方策を立てなければいけないが、温泉館とあてら荘はセットになつているので、あてら荘の黒字をもっと増やせば全体的に収支が改善するのではないか。

● それには観光の集中化を行い、入り込み客を増加させる必要がある。

● フォレスパ木曾の運営は兼任の社長では無理がある。

● 専門の社長をおいてやるのが大事ではないか。村づくり推進委員会でも提言をしてあるが早く民間へ移行して欲しい。

● フォレスパ木曾について行政が一方的に悪い話しをするが、議会も村民を代表しているの、議会で何とかするという努力も必要ではないか。

● フォレスパ木曾にはツジヤシヤクナゲがたくさんあるが、最近多くなつた「リュックサク族」にお金を落とさせるような工夫ができないか。また村の観光係を充実させて欲しい。



須原地区館

● フォレスパ木曾の経営が良くないことは承知しているが、村の行政の足を引っ張り続けている赤字が将来的に良いことかどうか議論しなければいけない。

● 今の利益計画の段階で、プラスマイナスゼロ決算の見通しはいつか。

● アクア利用券でプールを利用している人がいるが、八〇パーセントは南木曾町在住の人たち。その人たちが、大勢の人に來てもらうにはどうしたらいいか心配しているのに、その熱い思いがなかなか温泉館のスタッフに伝わらない。

● 最近の水の色がバスクリンのような色であったり、休憩室のエアコンやカーテンが故障したりしており、イメージが非常に悪い。

● 年数が経過しているが少しずつ直して欲しい。人がいないことが良くないので、水泳教室とかアクアビクスなどをもつと採り入れるなど人を集められないか。

● 皆が心配しているの、何とか良い方向にならないものか。

● 和村地区の道路で温泉館はどこかと訪ねられることがある。国道にフォレスパ木曾の誘導看板が少ないのではないか。

ケーブルテレビを有効に活用して

● 大桑村のケーブルテレビ放送は木曾町に比較して動画放送がない。動画は議会中継だけで他は静止画しかないが理由は何か。今後のあり方をどのように考えているか。

● 昨年、野尻地区で発生した火災の際、ケーブルテレビ回線が燃え不通になつたが復旧に時間を要した。重要な回線なので、一方通行ではなくループにするなど、事故により切断された場合でもその回線を保障するような電線の張り方がよかつたのではないか。

● 今後企業へも導入を進めていく中で保障がないとなると問題ではないか。

● 木曾郡全域がインターネットに接続されると、サーバー容量が不足し、インターネットがつながらにくくなるという現象が生じるのではないか懸念されるが。

地元産米を生かせ

● 農産物生産販売組合総会の席上、小中学校の校長からは非地元産の米を生徒に食べさせたいとの話があつた。

● 村が補助するなどして、地元産米を小中学校給食へ導入することはできないか。

● 道の駅大桑で三社がそれぞれ経営していることには無理がある。

● 米っ子大桑は根本から考え、独自の物を販売しないと無理があり、米の消費は減っているが米の粉の消費は増えているので、それらを考えていかなければいけない。



村づくりへの 提案・要望

- 自立計画の達成をスピードアップさせるために、自立のキーワードになっている「協働」の村づくりの観点から、村民による多くの専門委員会を編成すべきである。そのことが村民の自立に対する参画意識を醸成することができ、村の活性化に役立つのではないかと。
- 若い人がどうすれば大桑村へ住み着いてくれるかを考えて欲しい。若い人が住むには魅力のある村でなければいけない。
- 議員と語る会は三方所では参加しにくいので、各地区等で開催するなど、気軽に意見を言えるような小さな単位で開催して欲しい。
- 議会では行政から付託された議題を審議するだけではなく、議会も提案・提言をして欲しい。
- サルやイノシシの被害が多い。他町村では追払犬など対策を講じているようだが、何か良い知恵はないものか。
- 所有者が収穫しない柿、栗があるとサルが集まり、付近の野菜が被害に遭うので村で伐採できないか。
- 後期高齢者医療制度など大きな国の流れに対しては、地方からの声というものをもっともつと議論を深め、議会の結論を出して欲しい。
- ボランティアで二年間のぞきどのツツジの手入れ、歩道の草刈りを実施したが一度も村の職員からお礼の言葉がないし、ジュースの一本もない。何かなければボランティアをやらなくなるのではないかと。
- のぞきど森林公園は将来的に持続していくことが良いかどうか。アケセス道路は狭いし路肩や舗装が壊れている。今後補修しながら維持しながらやっていくことは大変だが、保育料、下水道使用料を値上げする一方で、のぞきど森林公園、フォレストパ本曾にはお金を払っている。これらが村民に



野尻地区館

- 野尻地区下水道事業で、当初計画地の地主に断られたから土地を提供して欲しいとの話しがあったが、本来は、当初計画地が理想の場所だからと地主を説得し、納得してもらおうような努力をすべきではないか。
- 自立だから協働だからといっても住民はついてこない。
- 野尻地区下水道事業で、当初計画地の地主に断られたから土地を提供して欲しいとの話しがあったが、本来は、当初計画地が理想の場所だからと地主を説得し、納得してもらおうような努力をすべきではないか。
- 保健師にはお世話になっており、お願いしたことはやっている。
- 相談を住民から持ちかけていくことが第一で、住民も歩み寄っていくことが必要であり、どちらも受け身では接点がなくなってしまう。

- 変更することにより工事がコスト高になってしまふ。
- 職員は全般的にもっと住民の行政サービスを考え、現地へ出向いてもらいたい。
- 保健師の活動が見えない。
- 以前、保健師からある職場へ、社員の健康診断のデータを提供して欲しい旨文書で依頼があった。職場を訪問し健康についてアドバイスをするならばともかく、統計をとるための机上の議論だけではだめだと思う。
- 住民が気軽に相談できる敷居の高くない保健センターや保健センターの職員がもっと住民と接するような機会を作って欲しい。
- 保健師にはお世話になっており、お願いしたことはやっている。
- 相談を住民から持ちかけていくことが第一で、住民も歩み寄っていくことが必要であり、どちらも受け身では接点がなくなってしまう。
- 昨年の出生者数は十二名で今年も出生予定数は十二名だが、今後、保育園、小学校へ行く子どもたちを思う時どうなるか心配になる。
- 木曾郡の中には出生率が二・二の所があるようだが、そこは幼い子どもと母親の集まりの場へ教育委員会職員、公民館長、福祉担当課長が必ず出席しており、「大きくなつたなあとか、何人目ですか」などと言葉がけをしている。
- うつわを作ることも良いが、人的なつながりが大変大事だと思う。
- そうなれば若い母親も安心して子育てができるのではないかと。

